

【宗祖法然上人御法語】

(第二十二) 一枚起請文 いちまいきしょうもん

浄土宗の念仏は、称となえれば極樂往生疑いなしと信じ、愚痴ぐちに還かえってひたすら南無阿弥陀仏と称となえることである。

1 法然上人のお念仏

もろこしわがちよう唐土我朝 ちしやにもろもろの智者達の、さた沙汰し申さるる かんねん観念の念にもあらず。又学問をして念のこころを悟りて申す念仏にもあらず。

私の説いてきたお念仏は、み仏の教えを深く学んだ中国や日本の高僧の方が理解して説かれてきた、静めた心でみ仏のお姿を想い描く かんねん観念のお念仏ではありません。また、み仏の教えを学びとり、お念仏の意味合いを深く理解した上で称となえるお念仏でもありません。

2 阿弥陀さまの本願

ただ往生極樂のためには、南無阿弥陀仏と申して、うたがいなく往生するぞと思ひ取りて申す外ほかには別の仔細しさいそうら候わすわず。

阿弥陀仏の極樂浄土へ往生を遂げるためには、ただひたすらに「南無阿弥陀仏」とお称となえするのです。一点の疑いもなく「必ず極樂浄土に往生するのだ」と思ひ定めてお称となえする他には、別に何もありません。

### 3 お念仏をとなえれば

ただし三心四修と申すことの候うは、皆決定して南無阿弥陀仏にて往生するぞと思ううちにこもり候うなり。

ただし、お念仏を称える上では、三つの心構えと四つの態度が必要とされますが、それらさえもみなことごとく、『南無阿弥陀仏』とお称えして必ず往生するのだ」と思い定める中に、自ずと具わってくるのです。

### 4 法然上人の誓い

この外に奥ふかき事を存ぜば、二尊のあわれみにはずれ、本願にもれべし。

もし私が、このこと以外にお念仏の奥深い教えを知っていながら隠しているというのであれば、あらゆる衆生を救おうとするお釈迦様や阿弥陀様のお慈悲に背くことになり、私自身、阿弥陀様の本願の救いから漏れ落ちしてしまうこととなります。

### 5 ただひたすらにお念仏をとなえる

念仏を信ぜん人は、たとい一代の法をよくよく学すとも、一文不知の愚鈍の身になして、尼入道の無智のともがらに同じうして、智者のふるまいをせずしてただ一向に念仏すべし。

お念仏の教えを信じる者たちは、たとえお釈迦様が生涯をかけてお説きになったみ教えをしつかり学んだとしても、自分はその一節さえも理解できなない愚か者と自省し、出家とは名ばかりでただ髪を下ろしただけの人が、仏の教えを学んでいなくとも心の底からお念仏を称えているように、決して智慧ある者のふりをせず、ただひたすらお念仏を称えなさい。

### 6 法然上人の教えのすべて

証の為に両手印をもつてす。

浄土宗の安心起行この一紙に至極せり。源空が所存、この外に全く別義を存せず、滅後の邪義をふせががために所存をしるし畢んぬ。

建暦二年正月二十三日 大師在御判

以上のことを証明し、み仏にお誓いするために私の両の掌を印としてこの一紙に判を押します。

浄土宗における心の持ちようと行のありかたを、この一紙に全て極めました。私、源空の胸の内には、この他に異なった理解は全くありません。私の滅後、お念仏について間違った邪な見解が出てくるのを防ぐために、考えているところを記し終えました。

建暦二年正月二十三日 (法然上人の御手印)